

# 平成23年度 病害虫発生予察情報

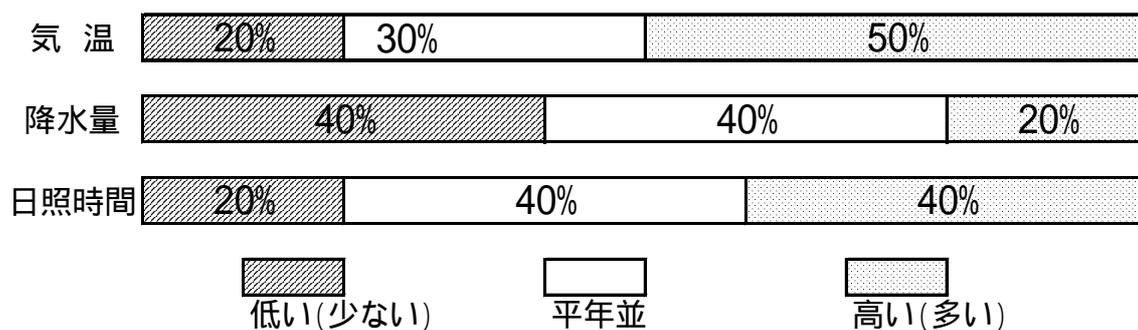
## 発生予報第5号（7月後半）

平成23年7月4日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並		
		穂いもち	平年並		
		紋枯病	やや少ない		
		白葉枯病	平年並		
		縞葉枯病	平年並		
		ヒメトビウンカ	平年並		
		ニカメイチュウ	平年並		
		ツマグロヨコバイ	やや多い		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	やや多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	少ない
				黒星病	平年並～やや多い
シンクイムシ類	平年並				
ハダニ類	平年並				
アブラムシ類	平年並				
カキ	うどんこ病			やや少ない～平年並	
	チャドクガミマ			やや少ない	
果樹全般	カメムシ類			やや少ない	

中国地方1か月予報(7月2日～8月1日・広島地方气象台7月1日発表)  
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



#### A. 普通作物

##### 1) イネ

##### (1) 葉いもち

予報内容

発生地方

発生量

予報の根拠

県内全域

平年並

6月24日現在、巡回調査地点における発生圃場率は1.4%（平年4.0%、前年0%）とほぼ平年並みである。

感染好適日は、6月第6半旬～7月第1半旬に県内一部地域で出現しており、潜伏感染が見込まれる。

向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

- ( 2 ) 穂いもち  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 伝染源となる葉いもちの発生量は平年並みと予想される。  
 7月後半の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- ( 3 ) 紋枯病  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 やや少ない  
 予報の根拠  
 6月24日現在、巡回調査地点における発病株率は0.1% ( 平年0.2% ) と平年に比べてやや少ない。  
 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- ( 4 ) 白葉枯病  
 予報内容  
 発生地方 県内常習発生地帯  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 6月24日現在、発生は確認されていない。  
 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- ( 5 ) 縞葉枯病  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 県内各地で発生が認められる。  
 媒介虫であるヒメトビウンカの発生量は平年並みと予想される。  
 ヒメトビウンカの保毒虫率は1.3%と昨年、一昨年と比較して低い傾向にある。
- ( 6 ) ヒメトビウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 6月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.1頭 ( 平年0.3頭 / 50株 ) 、発生圃場率は9.4% ( 平年10.0% ) で発生量は平年並みである。  
 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- ( 7 ) ニカメイチュウ ( 第1世代 )  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べてやや少ない。  
 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は3.1% ( 平年5.4% ) 、被害株率は0.1% ( 平年0.3% ) で発生量は平年並みである。  
 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- ( 8 ) ツマグロヨコバイ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 やや多い  
 予報の根拠  
 6月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.9頭 ( 平年2.8頭 / 50株 ) 、発生圃場率は53.1% ( 平年36.9% ) で発生量は平年並みである。  
 予察灯での誘殺数は平年並みである。  
 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。
- ( 9 ) セジロウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 予察灯への初飛来は、浜田市で6月26日に観察された。6月末までの誘殺数は平年に比べて少ない。

6月下旬の巡回調査では圃場での発生は認められない。  
向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

予察灯、粘着誘殺灯への飛来は6月末までに認められない。

6月下旬の巡回調査では圃場での発生は認められない。

向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

予察灯、粘着誘殺灯への飛来は6月末までに認められない。

6月下旬の巡回調査では圃場での成幼虫の発生は認められない。

向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

6月下旬の圃場周辺雑草地でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で1.8頭/10回振り、調査地点の41%（去年同期：2.1頭/10回振り・35%）で発生量は平年並みである。主要種はアカスジカスミカメである。

向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

6月27日の巡回調査では、発病葉率は2.7%（平年6.6%）であり、発生量は平年と比べて少ない。

向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

6月27日の巡回調査では、発病葉率は1.4%（平年0.8%）であり、発生量は平年に比べてやや多い。

向こう一か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

予報の根拠

フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期は平年に比べやや遅く、誘殺数は平年並みである。

向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容

発生地方

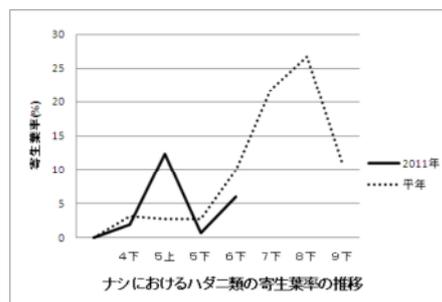
県内ナシ栽培地帯

発生量

平年並

予報の根拠

6月下旬の巡回調査では寄生葉率6.0%  
(平年9.9%)で平年並みである。  
向こう一か月の気象は本虫の発生を特に  
助長する要因とはならない。  
クワオオハダニが見られる圃場も散見さ  
れます。クワオオハダニに効果の低い薬  
剤があるので薬剤の種類には注意が必要  
である。



(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方

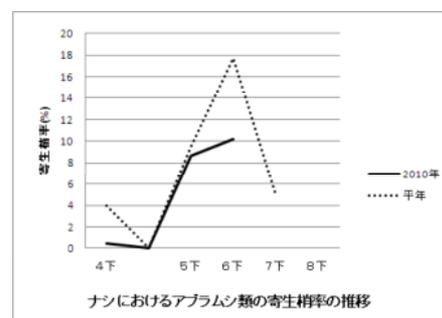
県内ナシ栽培地帯

発生量

平年並

予報の根拠

6月下旬の巡回調査では寄生梢率10.2%  
(平年17.7%)で平年並みである。  
向こう一か月の気象は本虫の発生を特に  
助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方

県内カキ栽培地帯

発生量

やや少ない~平年並

予報の根拠

6月29日の巡回調査では、発病葉率は0.4% (平年0.4%) であり、発生量は  
平年並みである。  
向こう一か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方

県内カキ栽培地帯

発生量

やや少ない

予報の根拠

露地圃場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年に比べてやや少ない。  
向こう一か月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般 (カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方

県内果樹栽培地帯

発生量

やや少ない

予報の根拠

予察灯 (出雲市) での7月1半旬までの誘殺数は61頭 (平年379.6頭) で平年  
に比べやや少ない。  
向こう一か月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijyutsu/byougai tyuu/>

